

# 活性化

## 政策分野 8 産業・商業

～新たな価値をつくる都市をめざす～

### 基本方針

京都のまちに脈々と受け継がれてきた匠のわざ、企業のもつ優れた技術力、知の集積拠点である大学など、これまで築き上げてきた「京都力」を生かし、「ものづくり」、「ことづくり」、「ひとづくり」により、京都ならではの産業・商業振興を進める。また、市民の健康と豊かな食生活を維持するため、流通体制の整備を進める。

### 現状・課題

京都は、伝統産業から先端技術産業まで付加価値の高い全国有数のものづくり都市として発展してきた。そして、全事業所数の99%以上を占める中小企業は、京都経済発展の原動力として、大きな役割を担っている。

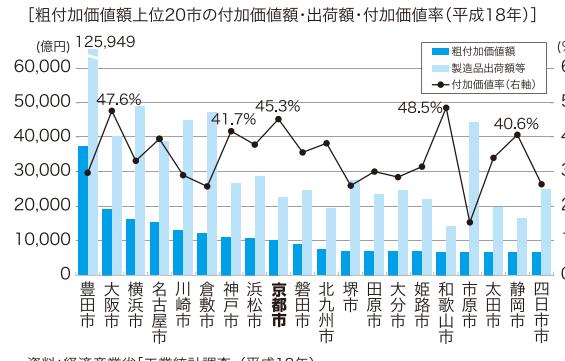
市内製造業の事業所数は減少し続け、ライフスタイル（くらし方、生き方）の変化等により伝統産業製品の需要は低迷している。また、小売業・卸売業の年間商品販売額の伸び悩みなどの課題も見られる。

企業のもつ技術と学術研究機関の知を融合する産学公連携を進め、新たなイノベーション（技術革新）の創出を図ることや時代のニーズにこたえる伝統産業、さらには、地域の特性に応じた商業の活性化が求められている。

山紫水明の自然、美しい町並み、歴史や伝統を彩る数多くの文化・芸術など、京都のまちに息づいてきた「美」、「感性」、「知恵」を産業・商業振興に十分に生かし、付加価値を高めるための支援や環境づくりが必要である。

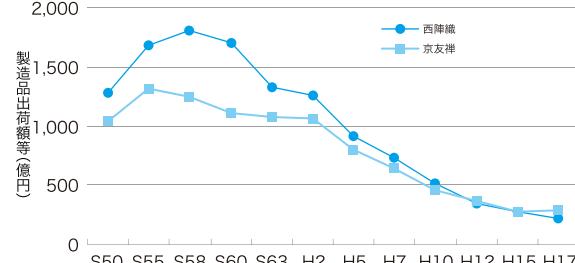
生鮮食料品等の輸入拡大、市場外流通が増加するなか、市民の「食の安全・安心」、「食育」への関心が高まり、中央卸売市場の整備や食文化の発信等、市場機能の強化が必要である。

### 付加価値の高いものづくり（全国で粗付価値額9位）



資料：経済産業省「工業統計調査」(平成18年)

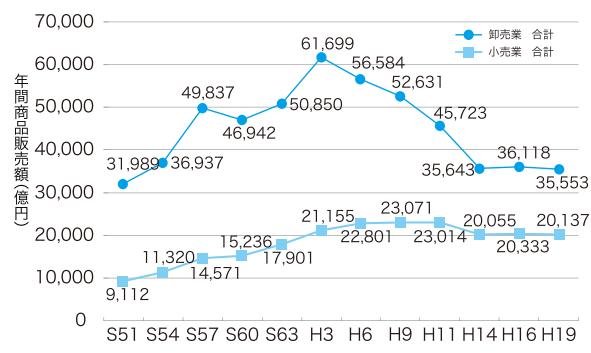
### 厳しい経営が続く伝統産業



資料：経済産業省「工業統計調査」

### 伸び悩む商業

[商業 年間商品販売額の推移]



資料：経済産業省「商業統計調査」

京都市の総人口は、平成17（2005）年（147万人）から緩やかな減少過程に入り、社会を支える層が減少すると予想されている。今後、生産性の低下を招き、経済が停滞するおそれがあることから、人口減少社会に的確に対応した雇用対策が求められている。

## みんなでめざす10年後の姿

### 1 産業連関都市として、生活の豊かさを実感できるまち

伝統産業から最新の技術をリードする先端産業までの幅広い業種に、大企業から中小企業までのさまざまな規模の企業が立地する重層的な産業構造をもち、それぞれの企業が相互に刺激を与え、連関し、さらに発展するとともに、生活の豊かさを実感できるまちとなっている。

### 2 付加価値の高いものづくりやサービスを創発するまち

企業のもつ優れた技術力や匠のわざと大学の知を融合し、環境、健康、食などさまざまな分野において、さらなるイノベーション（技術革新）により付加価値の高いものづくりやサービスを創発するまちとなっている。

### 3 京都ならではの「美」、「感性」を生かし、独自性と創造性を生み出すまち

1200年の悠久の歴史と豊かな自然のなかで息づいてきた京都ならではの「美」や「感性」を生かし、伝統産業を発展させるとともに、コンテンツやデザイン・意匠などの産業において、その独自性と創造性を生み出すまちとなっている。

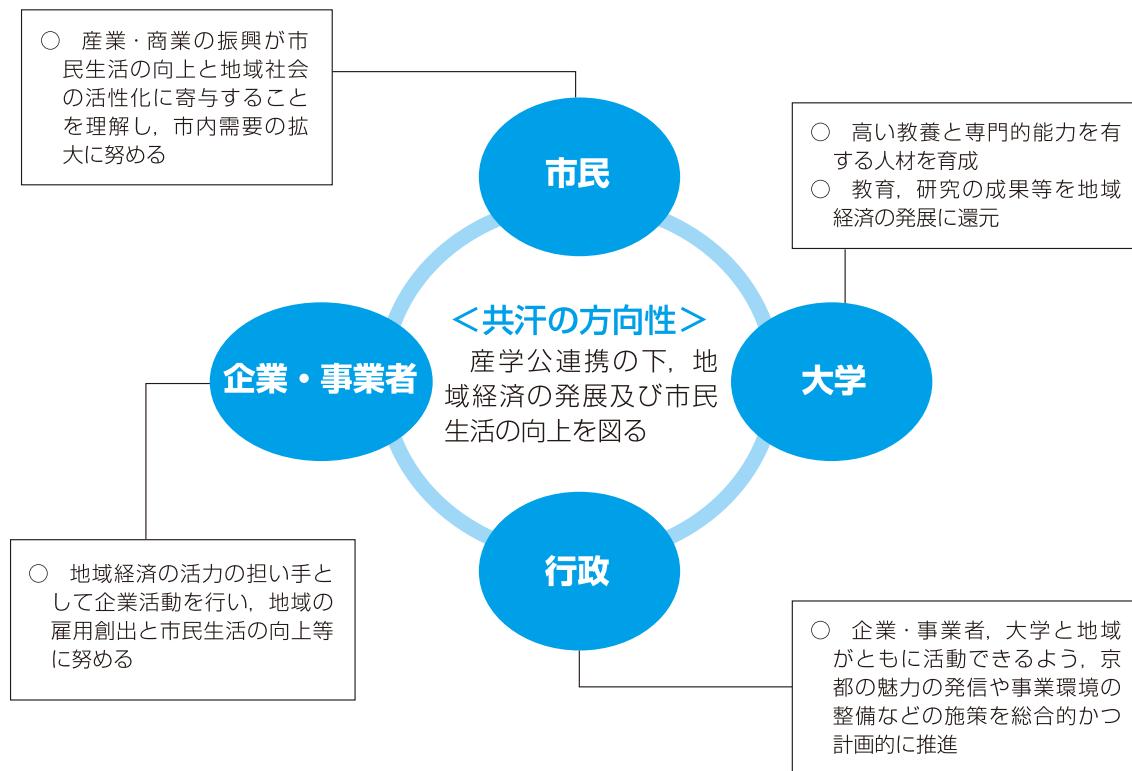
### 4 商いでにぎわい、魅力あふれるまち

若者から高齢者まで幅広い年齢層の市民や観光客が安心して買物を楽しむことができ、意欲をもつ商業者が才覚を発揮して元気に頑張れる魅力あふれるまちとなっている。

### 5 働くことを希望するすべてのひとが就業できるまち

より多くのひとが社会を支えるという観点から、新たな雇用の創出や雇用のミスマッチ（不釣り合い）を解消することで、若者、女性、高齢者、障害のあるひとを含め、働くことを希望するすべてのひとが就業し、その意欲と能力を最大限発揮できるまちとなっている。

## 市民と行政の役割分担と共に



## 推進施策

### 1 多様で活力ある中小・ベンチャー企業の育成と発展支援

中小企業の経営の安定、向上を図り、地域の経済力を高めるため、中小企業への金融支援を行うとともに、産業支援機関等による経営支援や技術・研究開発支援、人材育成など、企業ニーズに即した支援事業を推進する。

また、未来の京都を担う有望な中小・ベンチャー企業等の発掘から育成までの一貫したハンズオン（専門家から直接手取り足取り指導を受ける）支援策を展開する。

### 2 産学公の連携による新産業の育成・振興と新事業の創出

産学公の連携の下、京都に集積する企業・大学・研究機関等の優れた技術と知的資産を生かして、イノベーション（技術革新）を持続的・発展的に創出するとともに、幅広い企業の連携を促進し、「環境・エネルギー」、「健康・介護」など社会課題解決型の産業成長分野に焦点を当て、付加価値の高いものづくり産業を育成・振興する。

また、コンテンツ、デザイン、文化芸術など創造的都市活動の分野において、京都の有する地域資源・産業集積を生かした、新産業・新事業の創出を図る。

### 3 京都の強みを生かした事業環境の整備

京都の強みを生かした産業振興を進めるため、産業支援機関の多様な支援機能を融合することで、産業技術研究所及び京都高度技術研究所のさらなる機能強化を図る。

また、大学、経済団体等との強固なネットワークを構築し、広域的さらには国際的な視点に立った産業科学技術研究拠点の整備や企業立地促進施策の充実、ICT（情報通信技術）の利活用の推進を図ることにより、新たな産業集積を生み出す魅力ある事業環境を整備する。

### 4 伝統産業の活性化と新たな展開の推進

京都の基盤産業である伝統産業の活性化を図るため、事業者等による創造的活動や海外市場を含めた販路開拓の取組に対する支援事業をはじめ、教育や学習の場等による普及啓発、技術の継承や後継者の育成、伝統産業活性化の拠点施設等の機能充実、優秀な技術者に対する表彰や奨励等の各種事業など伝統産業の活性化に関する新たな取組を積極的に展開する。

### 5 地域の特性に応じた商業振興

若者からお年寄りまで多世代に愛される京都ならではの「華やかな都市のにぎわい」を創出することをめざし、地域コミュニティとしてふれあいを大切にするなどまちづくりの観点から地域の魅力を高める商店街づくりや、環境への負荷の低減、次代を担う商業者の育成、都市間競争に勝つための都心商業地域の活性化などに寄与する取組を推進する。

### 6 ソーシャルビジネス（社会的企業）\*への支援

まちづくりや商店街の振興等の地域活性化、少子高齢化や環境問題等に対して、経済活動を通じて対応していくことが重要であり、市民と協力しながら社会的課題を解決するソーシャルビジネスが生まれる環境づくりを推進する。

### 7 市民に安心していただける流通体制の強化

市民に安全で安心な生鮮食料品を供給するため、中央卸売市場の施設機能の維持・充実、季節や旬を重んじる京都の食文化の継承や食育の推進、産地への支援や市民への食情報の提供等の取組を進めていく。

また、商取引や社会生活のあらゆる面で行われる計量について、正しい計量の実施が確保されるよう、検査や指導等に努める。

### 8 雇用の維持・確保と新たな雇用創出に向けた取組の推進

若者、女性、高齢者、障害のあるひとを含め、働くことを希望するすべてのひとが就業できるよう、雇用行政、労働行政を担う国や京都府との連携を図りながら、雇用のミスマッチ（不釣り合い）解消のための取組をはじめとした雇用の維持・確保に努めるとともに、新たな雇用の創出に向けた取組を推進する。

\* ソーシャルビジネス（社会的企業）：社会問題の解決を目的として収益事業に取り組む事業体

## 政策分野 9 観光

～いよいよ旅の本質\*へ 世界が共感する観光都市をめざす～

### 基本方針

「5000万人観光都市」を実現した京都観光は、「量の確保」とあわせて、「質の向上」を図り、「旅の本質」を堪能できる世界で一番のまちをめざす。そのため、「観光スタイルの質」と「観光都市としての質」の向上に取り組む。

また、京都の都市特性を生かした世界に冠たる国際 MICE\*都市～国際会議、企業研修旅行、イベント等による国際集客都市～への飛躍をめざす。

### 現状・課題

年間入洛観光客数は、平成20（2008）年に5,000万人を突破した。平成21（2009）年は世界同時不況や新型インフルエンザの影響で4,690万人となったが、平成22（2010）年1月以降、力強い回復基調にある。

入洛観光客の特徴は、「女性が64.7%」、「50歳代以上が約半数、20歳代以下は約4分の1」、「日帰り73.7%、宿泊26.3%」、「平均宿泊数1.65泊」で、訪問回数では「10回を超えるリピーター」が半数を超える。

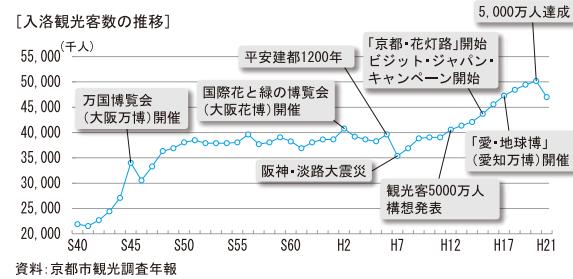
月別の入洛観光客数は、春・秋に多く、夏・冬は少ない。2月は11月の約3分の1。

主要ホテルの客室稼働率は、観光シーズンにはほぼ満室で、宿泊施設の確保が困難である。また、世界的に知名度の高いホテルや長期滞在者向けの施設などが少ない。

観光客の京都に関する感想では、「交通」、「道路」に関する評価が突出して悪い。

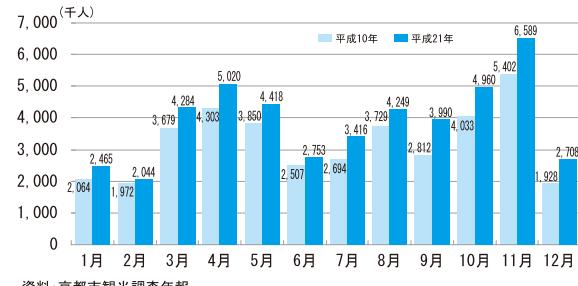
修学旅行客数は、対象生徒数が減少するなか、概ね100万人を維持している。一方、海外からの教育旅行の受入れは、少人数にとどまる。

#### 平成20年に5,000万人を突破



#### 春・秋に比べ、夏・冬が少ない

【月別の入洛観光客数】



#### 対象生徒数が減少するなかでも、概ね100万人を維持

【入洛修学旅行客数の推移】



\* 旅の本質：ひとに出会い、風景に出会い、心打たれる出来事に出会い、そして新たな自分自身に出会い。旅を通して、気付き、学び、癒され、元気をもらい、成長し、人生が深く、豊かになること。

\* MICE（マイス）：企業のミーティング、企業研修旅行、国際会議、イベントなどの総称

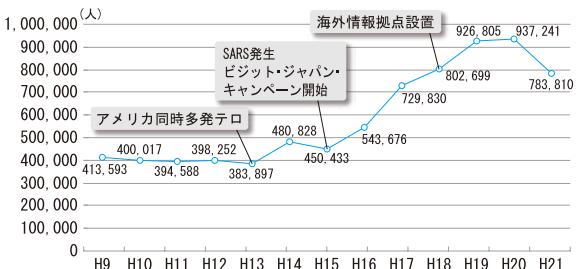
宿泊外国人客数は、ここ5年で倍増するなど増加傾向にある。とくに欧米諸国からの人気が高い。今後中国人観光客の増加が見込まれる。

国際観光は世界各国で主要産業として成長とともに、旅行で年間1億円以上消費する層が10万人以上も存在する。

国際コンベンション<sup>\*</sup>の開催件数は世界で20位以下、国内でも2位から4位に転落している。

## 増加傾向にある宿泊外国人観光客

[京都市の宿泊外国人客数の推移]



資料:京都市観光調査年報

## みんなでめざす10年後の姿

### 1 観光スタイルの質が高まっている

名所を足早に見て回るのではなく、じっくり滞在・宿泊し、京都の日常生活や文化、芸術、食、産業、知恵、自然など、ほんものとふれあう観光や、歩いて楽しむことをはじめとする「環境モデル都市・京都」にふさわしい環境にやさしい観光など、「質の高い観光スタイル」が定着している。

### 2 観光都市としての質が高まっている

今ある魅力が守り育てられるとともに、新しい魅力が創出され、国籍、年齢、性別、障害の有無等にかかわらず、だれでも、いつでも、不満なく、安心・安全かつ快適に京都の魅力を堪能でき、また市民にとっても暮らしやすい、さらに「質の高い観光都市」となっている。

### 3 京都観光の新たな主体として市民が存在感を発揮している

京都が有する世界に誇る財産を、子どもから学生、大人まで、市民自身がしっかりと享受し、知り、学び、楽しみ、市民が京都のファン・達人となっている。また、そうした市民が、観光客を温かく迎え、京都観光の新たな主体として存在感を発揮するまちとなっている。

### 4 新たな京都ファンが創出されている

子ども連れの家族や若者・学生、若い女性、ラグジュアリー層<sup>\*</sup>、ビジネス客など、新たな層が京都ファンとなっている。

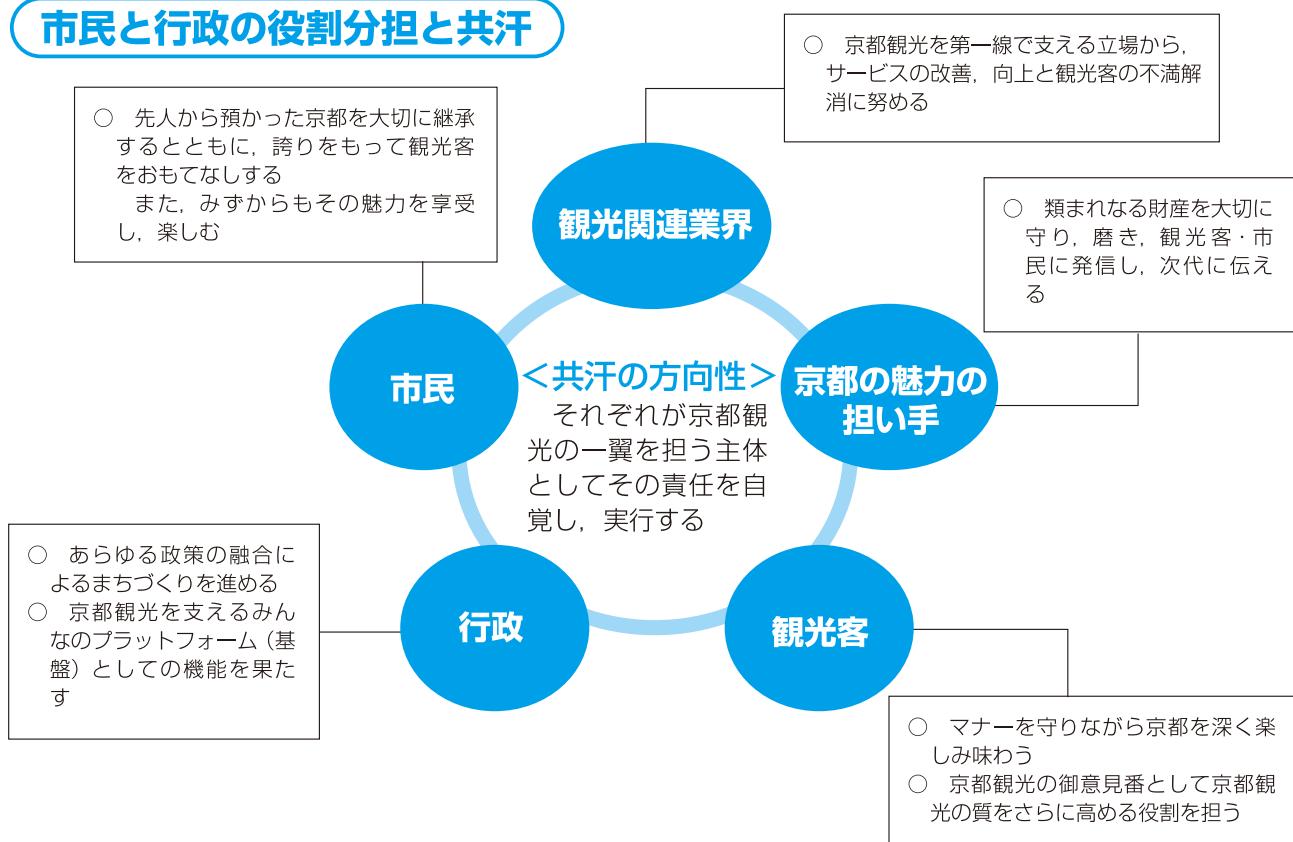
### 5 世界に冠たる国際MICE都市となっている

5,000人規模の国際会議場が整備されるとともに、世界的な知名度の高いホテルが誘致されるなど、京都の都市特性を生かした世界に冠たる国際MICE都市となっている。

\* コンベンション：国際団体、学会、協会が主催する総会、学術会議等

\* ラグジュアリー層：経済力があるだけでなく、文化的素養が高く、京都がもつ奥深い魅力への興味・关心が高い層

## 市民と行政の役割分担と共に



## 推進施策

### 1 観光スタイルの質の向上

#### (1) 滞在・宿泊型観光の推進

日常生活のなかにこそ息づく京都の奥深い魅力を、観光客にじっくり体感いただく質の高い観光を推進するため、朝と夜の観光を進めるとともに、和風旅館の魅力向上や世界的な知名度の高いホテルの誘致、京町家の活用など多様なニーズに対応する宿泊施設の充実を図る。また、長期滞在メニューの開発など京都での連泊を促進する。

#### (2) 環境にやさしい歩く観光の推進

環境にやさしい移動手段であるだけでなく、まちかどに息づく歴史と伝統を、五感で堪能することができる最も贅沢な観光スタイルである「歩く観光」を推進するため、観光案内標識を拡充するなど歩いて楽しむための環境整備や公共交通の利便性向上、山紫水明の自然を歩く観光の推進に取り組む。また、観光客向けのエコ化の推進など、環境モデル都市にふさわしい観光スタイルを追求する。

#### (3) ほんものとふれあう観光の推進

「見る」観光から「ふれあう」観光への転換を図るため、体験・学習型コンテンツの充実など京都の文化や知恵、匠のわざを心で“みる”（看る、診る、視る、観る、魅せる）観光を進める。また、京都人とのふれあいが魅力的な観光資源であることを踏まえ、地域ごとの個性を生かし、観光客が京都のくらしや伝統産業、農林業などものづくりを体験できる取組を推進する。

## 2 観光都市としての質の向上

### (1) 快適な受入環境の整備

国籍、年齢、性別、障害の有無等にかかわらず、すべての観光客が快適に京都の魅力を堪能し、「また来たい」という思いを抱いていただくため、観光客の不満解消、さらには市民生活の向上の観点から、クルマから公共交通への転換や公共交通の利便性向上、観光案内の充実、ユニバーサルツーリズム<sup>\*</sup>の推進、美しいまちづくりを進める。

### (2) 新たな京都ファンづくり

京都の有する多彩な魅力をもっと多くのひとに知っていただくとともに、幅広い層に支えられた持続的な観光振興を図るため、新たな魅力の創出や誘致活動を展開し、子ども連れの家族や若者・学生、若い女性、ラグジュアリー層、ビジネス個人客など、新たな京都ファンづくりを進める。

### (3) 市民が存在感を発揮する観光都市の実現

「京都人としてのたしなみ」に磨きをかけた市民が観光客を温かく迎え、京都観光の新たな主体として存在感を発揮する観光都市をめざす。そのため、子どもから大人まで市民自身が京都の魅力をしっかりと享受し、楽しむ「市民の京都再発見」を進めるとともに、観光ボランティアの裾野を広げるなど、市民と観光客がふれあえる場を創出する。また、市民のおもてなし向上と観光客のマナー向上の気運を盛り上げる。

### (4) 国内外への効果的な魅力発信

京都にこそ旅の本質があることを効果的に国内外に発信するため、ホームページの充実など情報発信ツールを整えるとともに、その内容を充実する。あわせて、夏や冬における京都ならではの魅力を活用したプロモーションをはじめ、京都の魅力をきめ細かく伝えるプロモーションや、修学旅行生や外国人観光客、ラグジュアリー層など、観光客の特性や市場ニーズに応じた効果的なプロモーションを実施する。

## 3 國際 MICE 都市～国際会議、企業研修旅行、イベント等による国際集客都市～への飛躍

MICE の誘致・振興は、京都ブランド・都市格の向上、市民生活の活性化、経済効果など、社会的及び経済的両面において京都の都市活力を支え、向上させるものであるとともに、京都観光の質の向上に寄与することが期待され、京都市の都市戦略として全市を挙げて MICE の誘致・振興に取り組む。

\* ユニバーサルツーリズム：すべてのひとが楽しめるようつくられた旅行のこと。年齢や障害の有無にかかわらず、だれもが気兼ねなく参加できることをめざす。

# 政策分野 10 農林業

いのち  
～ひとと生命と環境を育む京の農林業をめざす～

## 基本方針

高齢化や後継者不足、農地や森林の荒廃進行に対処するため、職業として魅力ある農林業を再構築し、その魅力を発信することによりさまざまな担い手を確保する。

また、農林業のもつ多面的機能の維持と発揮により、資源循環型産業として社会や環境に貢献するとともに、市民の農林業に対する期待にこたえるため、市民の農林業への参画や農林業を通じた自然とのふれあいの機会を創出していく。

## 現状・課題

収入の不安定さや就労環境の厳しさ等から新規就労者が少なく、農林業従事者の高齢化と減少が続いていることから担い手の育成が必要である。

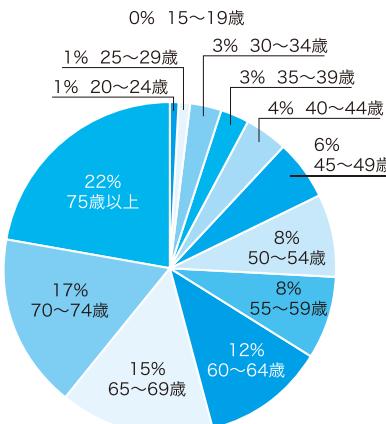
経営耕地面積が小規模で分散しているため、効率的な農業経営が必要である。

野生鳥獣や病害虫による農林産物被害や耕作放棄地が増加していることから、農地や森林を適正に管理する必要がある。

地球温暖化対策につながる森林整備のため、作業道整備等の条件整備が必要である。

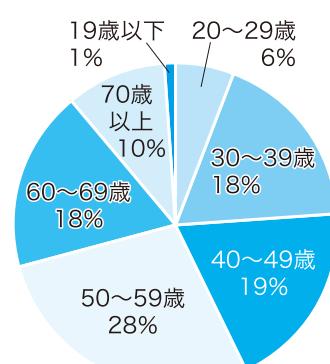
安心・安全な食を生み出す農業や森林保全活動に対する市民の関心が高まっており、市民が農林業に参加する機会を増やす必要がある。

基幹的農業従事者の 54% は 65 歳以上



資料:農林水産省「農林業センサス」  
(平成17年)

林業労働者の 56% は 50 歳以上



資料:京都市林業統計(平成20年)

牛の放牧による猿害対策



高性能林業機械による森林整備



市民によるナラ枯れ木伐採処理風景



小学生の体験学習風景（堀川ごぼう）



## みんなでめざす10年後の姿

### 1 農林業の魅力創出で多様な担い手が育つ環境が整っている

京都ブランドなどを生かしグローバルな視点も加えた付加価値の高い農林産物の生産や、効率的作業の実現等により所得が増大し、農林業が産業として魅力あるものとなり、農林家に加えて一般市民からも多様な新しい担い手が育つ環境となっている。

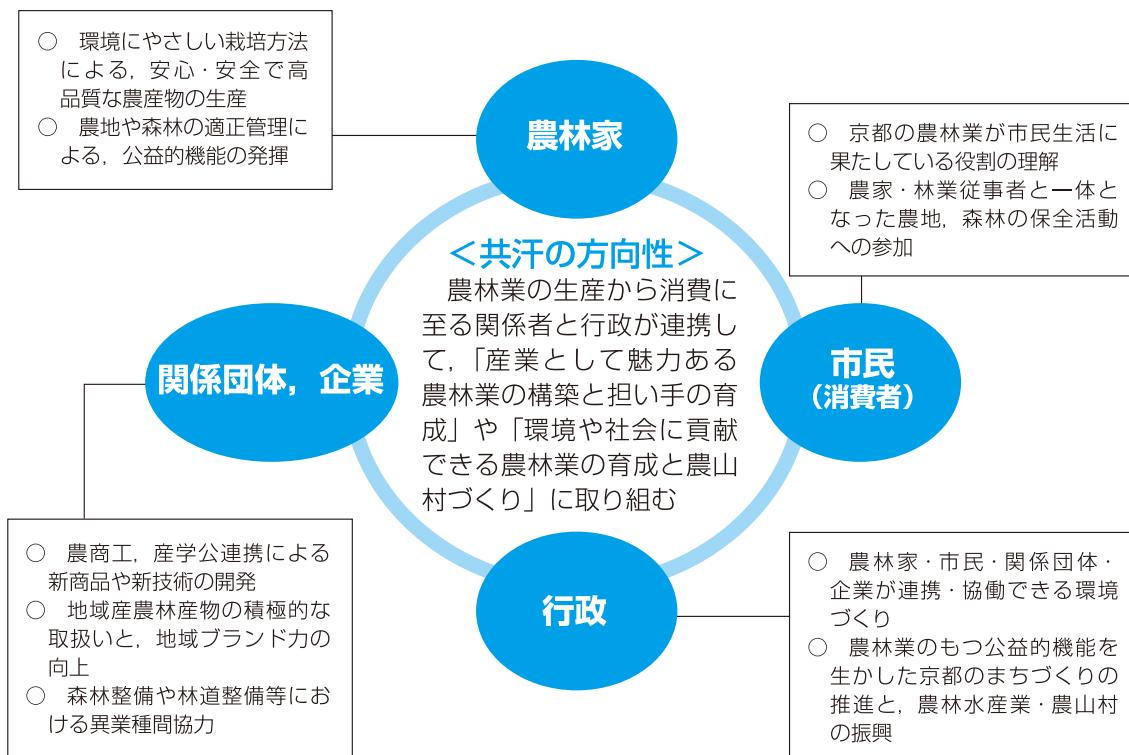
### 2 農林業が環境や社会に貢献できている

総合的な野生鳥獣対策の実施や、京の旬野菜の生産など環境に過度な負荷をかけない取組の普及、森林の多様な機能の向上につながる間伐等の森林の適切な整備と木材の活用が進み、農林業が環境や社会に貢献できている。

### 3 市民の農林業への参加と理解が進んでいる

市街地に残る農地や周辺を山に囲まれた京都の特徴を生かして市民農園など農林業に触れる機会の創出や、学校教育において農林業体験学習が実施されることにより、市民の農林業への参加と理解が進んでいる。

## 市民と行政の役割分担と共に



## 推進施策

### 1 産業として魅力ある農林業の構築と担い手の育成

#### (1) 農林業経営の安定と向上

市民ニーズに合った付加価値の高い農林産物の生産や消費拡大に向けた取組を行うとともに、農林業の中核的な担い手への支援を充実させる。

また、近年深刻化している農林業の野生鳥獣による被害軽減を図り農林家の経営意欲の維持・向上を図るため、野生鳥獣害に対する総合的な対策を実施する。

#### (2) 農林業と他産業との連携

農商工や産学公連携による京都ならではの新商品開発や6次産業<sup>\*</sup>化をめざす農林業者の支援を行うとともに、農林業と観光産業との連携を図る。

#### (3) 地産地消の推進

市内農林産物に関する市民の理解を深め、生産者と消費者の顔の見える関係を強化するため、市民への情報提供などを行う。

また、市内産農林産物のさらなる利用を促進するため、新たな販路の開拓を行う。

\* 6次産業：1次産業である「生産」、2次産業である「加工」、3次産業の「流通・販売」の3つの要素それぞれに総合的に取り組む事業形態を指す造語。1×2×3で「6」次産業となる。

#### (4) 多様な担い手の育成

職業としての農林業の魅力を広く市民に啓発し、後継者や新規就業者、定年帰農者などの多様な担い手を生み出す機会の創出を図る。

とくに、中山間農業地域の活性化を促進するため、農地あっせんなどにより新規就業者が地域に定住できるような支援を行う。

### 2 環境や社会に貢献できる農林業の育成

#### (1) 環境を創造する農林業の推進

「環境モデル都市・京都」として環境や社会に貢献できる農林業を実現するため、間伐を促進するとともに、農業生産の段階における化石エネルギー依存からの転換を図る。

また、病害虫防除や森林整備など農林業の生産活動において地域環境への負荷を軽減させる取組や、資源循環型農林業を推進する。

#### (2) 農林業のもつ多面的機能を生かした地域づくり・ひとづくり

農林業のもつ水源の涵養、自然環境の保全、良好な景観形成などの多面的機能の市民啓発を推進するとともに、観光資源につながる農林業・農山村の魅力創出を図る。

また、京都三山や農山村地域の景観、生物多様性の保全・向上を図る。

### 3 市民との共汗で築く農林業

#### (1) モデルフォレスト運動など市民と連携した農地・森林の保全

市民が農作業に触れる機会を創出するとともに、農林業を支える市民ボランティアやNPO、企業との連携を進める。

とりわけ、京都モデルフォレスト運動\*と連携した森づくりを推進する。

#### (2) 学校教育等との連携による農林業の推進

学校教育をはじめとするさまざまな学びの場との連携によって農林業を題材とした学習環境を整備するとともに、食文化の継承など食育活動を促進する。

\* 京都モデルフォレスト運動：森林から恵みを受けるすべての市民の参加により、森林を守り育てる運動のこと。

## 政策分野 11 大学

～大学の集積が都市の活力を支え高めるまちをめざす～

### 基本方針

悠久の歴史、伝統的な文化芸術、最先端技術等の京都の魅力とともに、「大学のまち京都」を発信し、国内外の学生をより多く受け入れ、先見性や創造性、卓越した指導力をもつ人材を育成する。また、集積された大学の知を新産業の創出や文化芸術の創造に生かすことにより、魅力と個性にあふれる「大学のまち・学生のまち」をめざす。

### 現状・課題

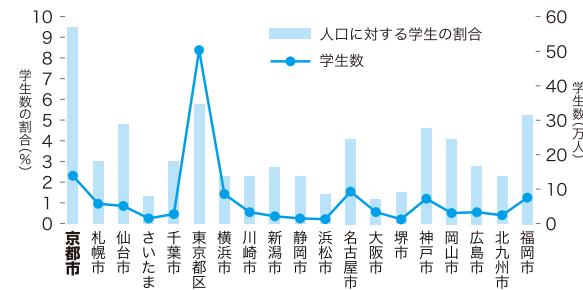
少子化の進展による学生数の減少や、国際的な大学間競争の激化により、大学の経営環境は厳しさを増している。京都市では、大学コンソーシアム京都を設立し、「大学のまち京都」のシンボル施設である大学のまち交流センター（キャンパスプラザ京都）を拠点として、大学連携の力を生かした先駆的な取組を展開し、成果を上げてきたが、今後さらに、京都ならではの講義や伝統文化に触れる機会等、京都で学ぶ魅力を高める必要がある。

国の「留学生30万人計画」に連動して、京都市においても、大学と連携して、留学生の受入体制の整備、受入気運の醸成等、留学生の受入拡大に取り組む必要がある。

他都市に例を見ない人口の約1割に当たる学生のエネルギーが高まり、地域活動に生かされ、まちの活性化につながることが、京都のまちの発展の原動力である。さらに、京都は学生にとって、地域社会を支える人材として、社会人に求められる「人間力」を涵養する舞台となる必要がある。

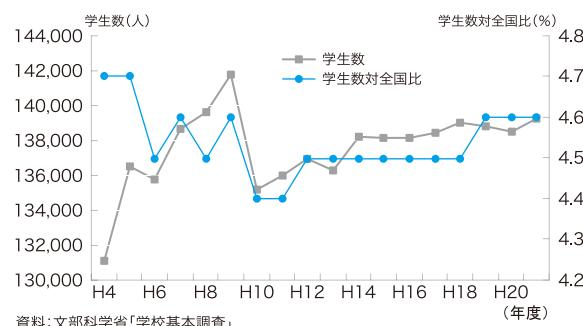
京都経済の活性化に向けた、産学公連携の強化、大学教育における地域体験型授業の促進等、大学での取組を地域の課題解決やまちの活性化につなげ、学生が社会で活躍できるよう、大学と地域が連携するしくみづくりが望まれる。

#### 人口に対する学生数の割合は全国最高



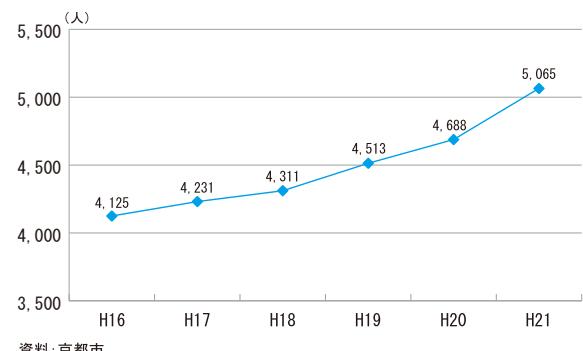
資料：文部科学省「学校基本調査」(平成21年)

#### 京都市の学生数は13万人台を推移 学生数対全国比は増加傾向



資料：文部科学省「学校基本調査」

#### 留学生数は増加傾向



資料：京都市

## みんなでめざす10年後の姿

### 1 京都ならではの「学びの環境」が整った、憧れの「大学のまち」

個性あふれる大学の集積と先進的な大学コンソーシアム京都の取組により「学びの環境」が充実していることに加えて、伝統的な文化芸術等に触れる機会に恵まれていることから、世界中の学生にとっての憧れの「大学のまち」となっており、卒業後も住み続けたくなるまちとなっている。

### 2 世界中から留学生が集まり、国際社会で活躍する人材が育つまち

世界中に京都のまちや大学の魅力が発信され、高度な教育研究機能に加え、生活環境が充実していることから、世界中から留学生や研究者が集まっている。これにより、大学を通じた国際的な交流が広がり、国内外の若者が歴史的・文化的環境を楽しみながら切磋琢磨し、国際社会で活躍する、京都大好きな人材が育っている。

### 3 世界に貢献する学術研究都市京都

京都の各大学における高度な学術研究の成果は多岐にわたり、京都のみならず日本、さらには世界に貢献している。

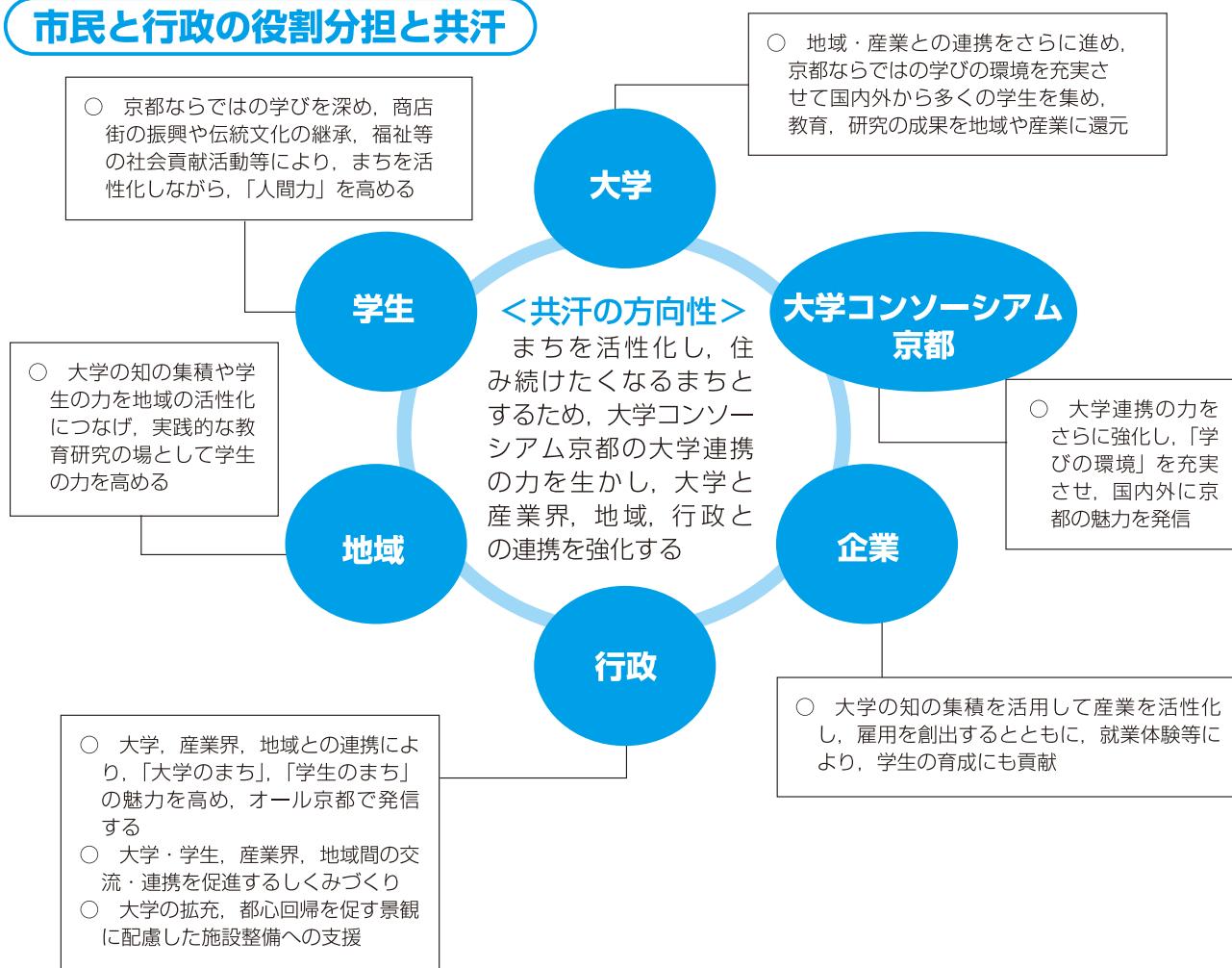
### 4 まち全体で育てた学生の力による、活気あふれる京都

学生の社会貢献活動の支援や学生と地域、NPO 等との交流の促進、産業界と連携した、社会・就業体験の機会の充実など、オール京都によるひとづくりのシステムが構築され、学生の「人間力」が向上するとともに、学生のパワーが生かされて地域が活性化している。

### 5 京都の発展を支える产学研公地域連携が進んだまち

大学の知の集積を生かし、ベンチャー企業が育ち新産業・知恵産業が創出され、京都の産業界が活性化し、学生の雇用へつながっているとともに、大学が、京都のまち全体を教育研究のフィールドとして学生を育てながら、このことが地域の発展にもつながっているなど、产学研公地域連携がますます進んだまちとなっている。

## 市民と行政の役割分担と共に



## 推進施策

### 1 京都で学び、住み続けたくなる「大学のまち」の実現

#### (1) 大学連携の力を生かした「学びの環境」の充実

世界中の学生が学びたくなる「大学のまち京都」を実現するため、個性あふれる大学が集積している利点を生かして、海外との遠隔授業や単位互換制度へのインターネットの活用、教職員の能力向上の取組強化や、伝統的な文化芸術等を生かした京都ならではの学習プログラムの創出など、大学コンソーシアム京都による先進的な取組を支援し、さらに進めることにより、「学びの環境」を充実する。

#### (2) 「大学のまち」の推進のための大学への支援

大学施設の拡充と市内への回帰を促し、京都のまちでさらに多くの学生が学べる教育環境を充実させるため、都市計画上の規制等の弾力的な運用をはじめ、市有地の活用も含めた総合的な支援を実施する。また、大学のまち交流センター（キャンパスプラザ京都）を活用した大学連携への支援を行う。

## 2 大学の国際化に向けた人材育成と留学生等の受入拡大

大学の国際化に向けて、各大学独自の取組に加えて、海外の大学コンソーシアムとの交換留学プログラムの開発等により、日本人学生の留学を促し、国際社会で活躍できる人材育成を進める。

また、海外への「大学のまち京都」の魅力発信を進めるとともに、留学生や研究者が京都で安心して学び、研究することができるよう、生活関連情報の提供などの支援を行うことにより、受入拡大を図る。さらに、留学生活の充実と京都との絆を深めるきっかけづくりとして、留学生と日本人学生との交流促進や京都の文化芸術に触れる機会を提供する。

## 3 学生のパワーで活気あふれる「学生のまち」の実現

学生の在籍数が人口の約1割に当たる京都において、学生のパワーでまち全体が活性化している「学生のまち」を実現するため、社会貢献活動やまちづくり活動をはじめとする未来の京都づくりにつながる学生の主体的な活動を、活動拠点や情報の提供、大学の垣根を越えた学生の交流促進等により支援する。

## 4 産業の振興と大学教育の充実に向けた产学公地域連携の推進

### (1) 産業の振興による学生の雇用の創出

大学の知の集積を生かして、ベンチャー企業の育成や京都特有の産業の振興と技術の継承、コンテナ産業等の新産業・知恵産業の振興を産学公連携のもとに推進する。また、産業界と連携し、学生の社会・就業体験の機会を充実することにより、産業の振興と学生の雇用創出を図る。

### (2) 大学教育の充実につながる大学と地域との連携の強化

大学教育の充実のため、京都のまち全体を研究の実践、体験の場とする教育活動が、学生が社会人として活躍する力を培うとともに、地域の主体的な取組にも結びつくよう、大学と地域との連携などの先進・成功事例の発信等を行う。

## 政策分野 12 國際化

～住むひとにも、訪れるひとにも魅力的な国際都市をめざす～

### 基本方針

1200年を超える歴史のなかで京都が蓄積してきた日本の文化を広く発信し、世界の国々からの訪問者を積極的に受け入れ、多彩な交流機会を通して新しい文化を創造し続ける国際都市をめざす。また、市民の外国文化に対する关心や理解を高め、多文化が息づくまちづくりを推進する。

### 現状・課題

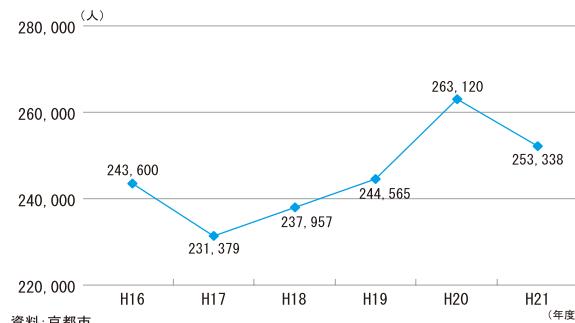
ICT（情報通信技術）や交通手段の進展等により、経済、文化、教育、観光等あらゆる分野で、国境を超えた世界規模での活動が進み、都市間の競争が厳しさを増すと同時に、国際交流の機運はますます高まっている。

観光客や国際会議参加者、留学生、研究者など外国からの訪問者を受け入れる、多言語による案内や多様な宿泊施設など、受入環境の一層の整備が求められる。

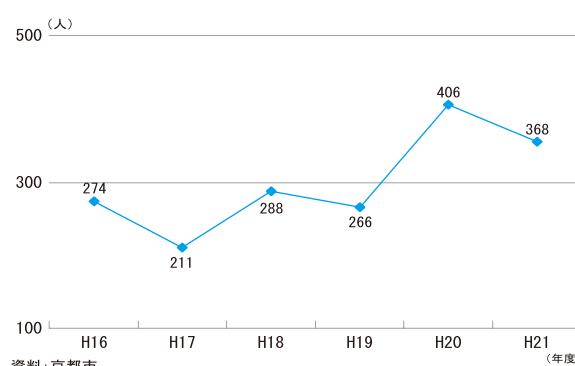
国際交流に関する市民向けの情報提供や学校における国際教育をさらに充実させ、国際交流活動への市民参加の促進と、ホームステイの受入れや日本文化の紹介をはじめとする国際交流ボランティアを増加させる必要がある。

在日韓国・朝鮮のひとや留学生など、多くの国籍の外国籍市民がくらしており、言葉や文化の相違に起因した課題の解決や、地域における交流の機会が求められている。

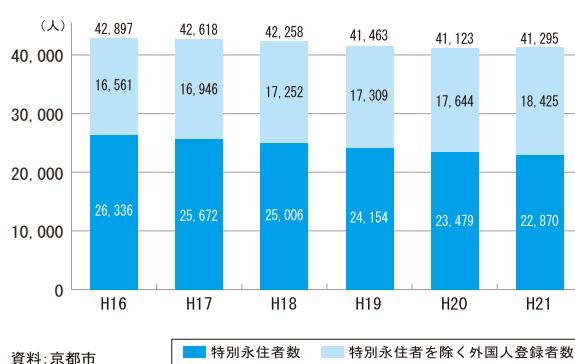
京都市国際交流会館来館者数は増加傾向



京都市国際交流会館登録ボランティア数は増加傾向



外国籍市民の推移



京都市国際交流会館オープンディ



京都市多文化施策懇話会の様子



姉妹都市との交流（グアダラハラ市）



第12回世界歴史都市会議（奈良市）



## みんなでめざす10年後の姿

### 1 世界中のひとびとを引き寄せるまち

京都は、1200年の歴史の中で、国内外からさまざまな文化を取り入れ、独自の豊かな文化を築き上げてきた。この国際都市としての蓄積を継承し、多様な文化を積極的に受け入れ、その魅力を向上させるとともに、積極的な情報発信を行い、受入環境が充実して、海外からの観光客や留学生など、世界中のひとびとを引き寄せるまちとなっている。

### 2 国際社会に大きく貢献するまち

京都市が会長都市を務める世界歴史都市連盟を通じた活動をはじめとする、国と国との関係を超えた都市間交流により、世界平和や人権、環境、歴史文化資産の継承等に関して、国際社会に大きく貢献するまちとなっている。

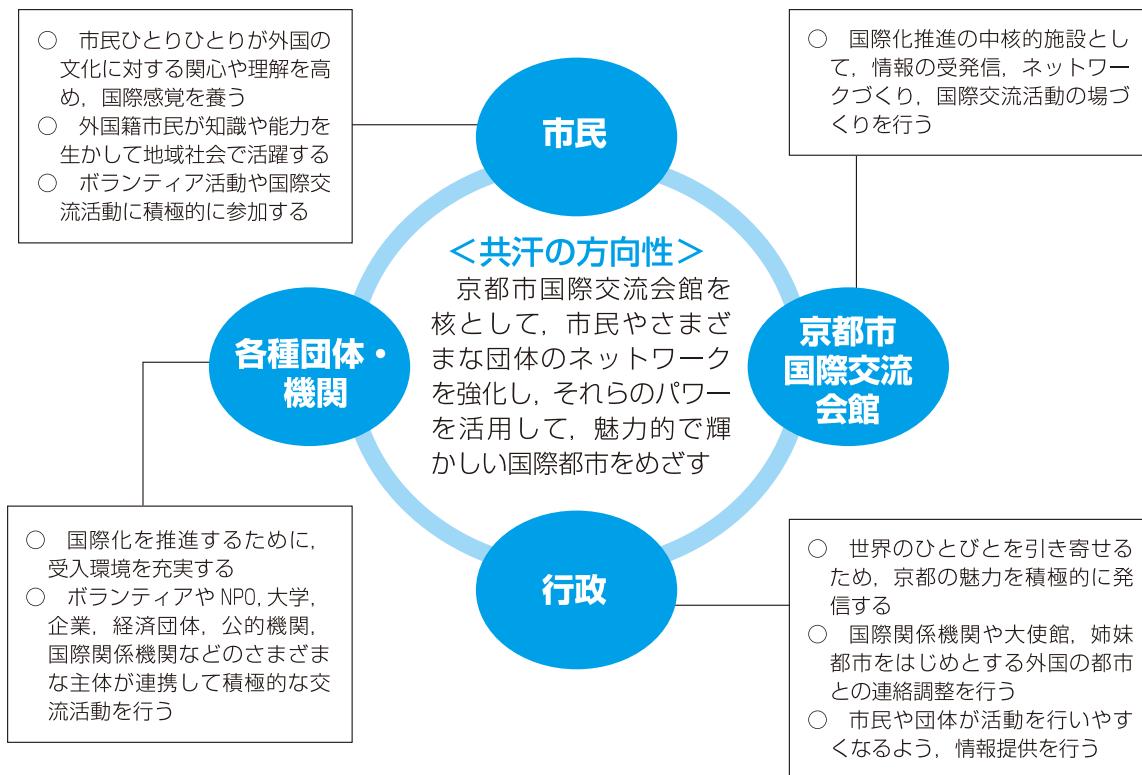
### 3 多文化が息づくまち

市民の外国の文化への関心や理解度が高まるとともに、外国籍市民や日本国籍を取得した外国にルーツをもつ市民が、存分に知識や能力を生かして地域社会で活躍することにより、あらゆる市民がより豊かな生活を送れる、多文化が息づくまちとなっている。

### 4 市民、民間レベルでの国際交流が定着したまち

国際交流拠点である京都市国際交流会館の活用や、行政のサポートにより、姉妹都市をはじめ世界各国からひとびとが集い交流する機会を拡充するとともに国際感覚をもった人材を育成することで、ボランティア、NPO、学校、企業、文化・伝統行事・まちづくりを支える団体等が活躍し、市民、民間レベルでの国際交流が定着したまちとなっている。

## 市民と行政の役割分担と共済



## 推進施策

### 1 世界中のひとびとを引き寄せる京都の魅力の向上と発信

世界中のひとびとを引き寄せるまちとするため、景観、文化、観光の三分野の施策を重点的に推し進めるほか、京都議定書誕生の地としての先進的な環境対策を推進するなど、京都がもつさまざまな魅力を向上させるとともに、多様なメディア（情報媒体）の活用や留学生・研究者、企業の駐在員等、ひとつひととのつながりによる効果的な情報発信を行う。

また、国際交流の拠点・コンベンション機能の充実をはじめ、海外から訪問されるひとが、より快適に行動できるよう、観光案内標識のグレードアップや観光情報の多言語化、おもてなしの向上に努めるなど、企業・市民とともに、受入環境の充実を図る。

### 2 市民主体の国際交流・国際協力の推進

市民、民間レベルでの国際交流が定着したまちとするため、姉妹都市交流をはじめ、特定分野において民間団体等が主体となるパートナーシティ交流を促進するとともに、京都市国際交流会館を核として、情報の受発信の充実や各種団体とのネットワークの強化を図るなど、世界各国のひとびとが交流する機会の拡充を行う。また、市民が国際理解を深める機会の提供や学校間交流の推進などを通じて、国際感覚をもった人材を育成する。

さらに、国際社会への貢献をめざし、都市の発展に寄与する技術交流・経済交流の促進や、世界歴史都市連盟の活動をはじめとする京都の都市特性を生かした国際協力を推進する。

### 3 外国籍市民等がくらしやすく、活躍できる多文化が息づくまちづくりの推進

多文化が息づくまちとするため、多言語による情報提供・相談事業などのコミュニケーション支援や文化・言語の相違に配慮した福祉・保健・医療、防災対策等の生活支援の充実により、外国籍市民や日本国籍を取得した外国にルーツをもつ市民が、くらしやすいまちづくりを推進する。

また、あらゆる市民がさまざまな国の文化に対する関心と理解を深めるための、学習機会や地域で交流し、ふれあう機会の充実を図る。さらに外国籍市民等が知識や能力を生かして地域社会で活躍できる機会の創出を推進する。